

2021

ANNUAL REPORT

— 2021年度 年次報告 —



女性や子どもが自分らしくのびのびと
生きることができる社会を目指して

認定NPO法人 女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ

〒650-0022 神戸市中央区元町通6-7-9 秋毎ビル1階
(特) 市民活動センター神戸気付
TEL・FAX 078-734-1308
E-mail : womens-net-kobe@nifty.com
<https://wn-kobe.or.jp/>

2022年7月発行

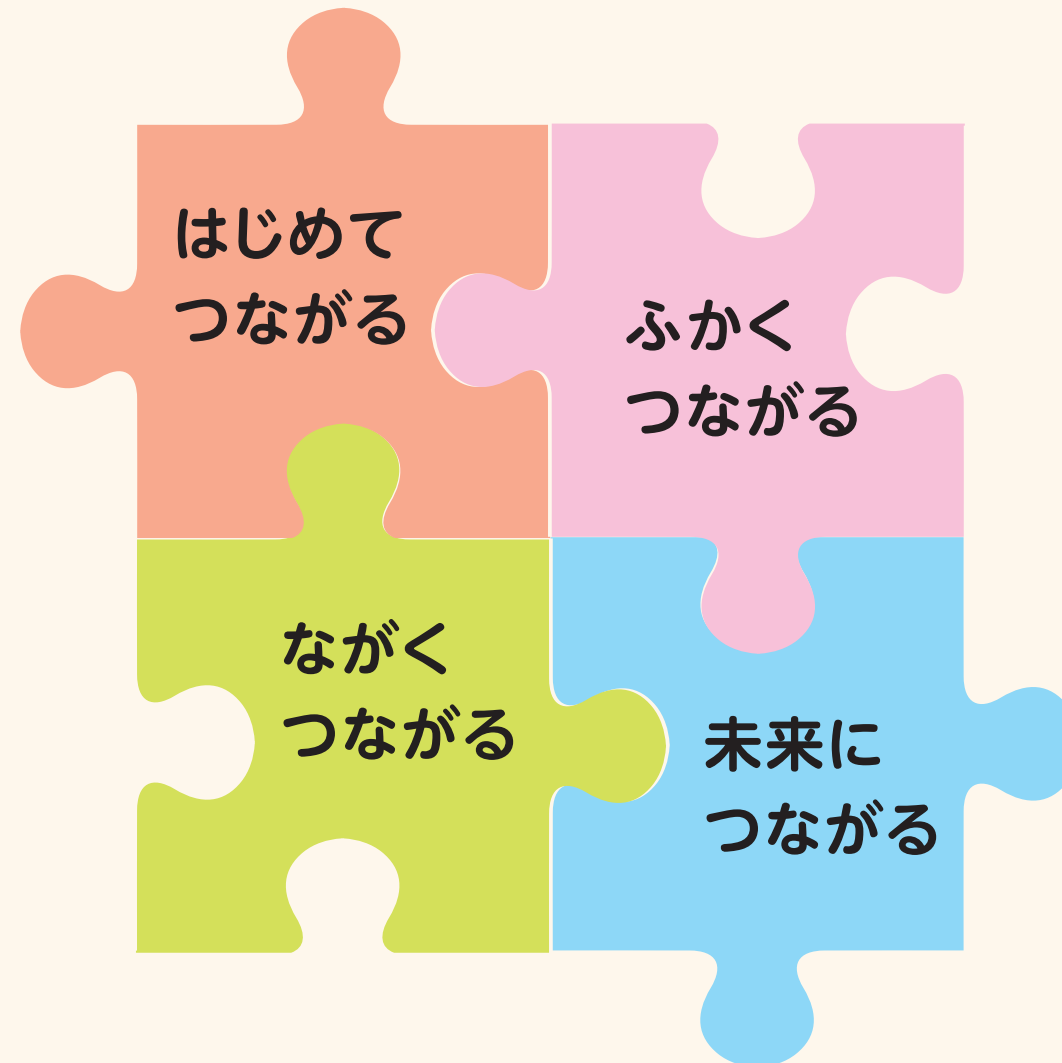
認定NPO法人 女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ



つながる～ウィメンズネット・こうべの 伴走型支援～

はじめてつながる…P3-4

- 電話相談
- メール相談
- 面接相談



ふかくつながる

- ともだちの家…P5
(シェルター)
- ステップハウス…P6
- 居住支援…P7
- 同行支援 & 家庭訪問支援…P8

ながくつながる

- WACCA b …P9
- WACCA+…P10

未来につながる

- WACCA 塾…P11
- デートDV防止授業…P12
- 啓発事業…P13-14

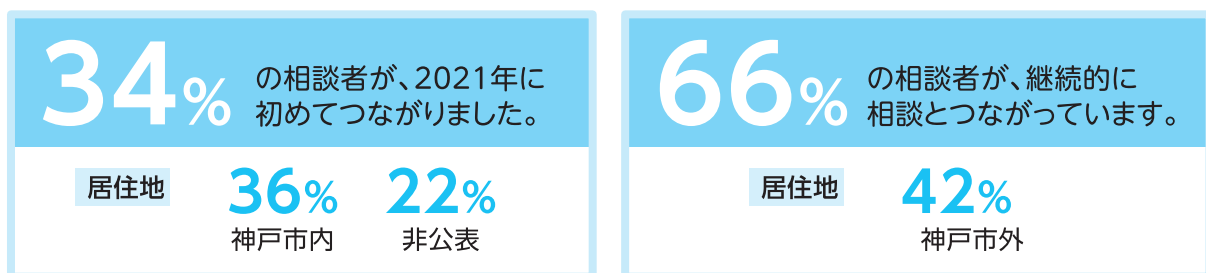
相談事業

DVの被害を受けている方を始め、パートナーの言動に不安を感じている方からのご相談を受け付けています。
電話相談、面接相談、メール相談を行っています。

2021年度実績



2021年に電話相談を通してサポートした方々



相談内容

32% の内容が、DVに関するものでした。DVには、身体的、精神的・モラハラ、経済的、社会的、性的、デートDVを含みます。

6% 家族からの虐待に関する相談
4% 離婚に関する相談

58% その他

- 性暴力
- ト라우マ
- 孤独感
- 子育て
- 親権について
- 家探し
- 法律相談
- 同行依頼
- シェルター入所など

相談者

85% 本人からの相談
15% 本人以外からの相談

ご利用者の声



面接相談の様子。専門スタッフが対応し、秘密は固く守られます。



Aさん

今まで夫のコントロールでさんざんしんどい思いをしていたので、自信がないことも多いのですが、お話を聞いてもらって、自分が間違いではなかったのだと少し思えるようになってうれしいです。

相談してようやく離婚に向けて進み始めることにいたしました。じっくりお話を聞いていただき、自分で決める時間を作っていただいたおかげだと思います。



Bさん

一連携して支援の幅をひろげていく

コロナ感染拡大からこの2年の間に生活が一変しました。いままで家庭の中で緊張状態にあった家族関係がぐずれ、DVも含め家族間の暴力でも相談をされる方が増えました。昨年度は電話相談も含め、各種相談件数が増加しました。

昨年度における相談事業の特徴は、若年層からの相談が増えたことです。10代20代前半で家族からの暴力などで家を出たものの、本人の希望に沿った社会資源が少なく、ウィメンズネット・こうべに繋がったケースもありました。家を出るとたちまち経済的に苦しくなり、未成年では家やスマホ契約等大きな壁にぶち当たりました。相談を通してそのような状況が明らかになり、単身用のステップハウスを増設することになりました。柔軟な対応ができるという民間団体の強みを生かし、行政、不動産業者や大学との連携の幅も広げ、若年女性の夢を叶える一歩になったと思います。

このように様々な抑圧から逃げ出すために相談をされる方が増えつつありますが、現状では年齢や障がいの有無で支援に繋がらないこともあります。今後も適切な支援に繋がらない課題をキャッチし、その課題を解決できるよう連携する支援機関を増やし、一歩踏み出した勇気が相談者の未来に繋がるよう事業を進めていきます。

DV・性暴力被害者サポートライン

- 電話相談 078-731-0324 (月・水・金 10:00~16:00)
- 面接相談 費用：無料 予約電話番号：078-731-0324
- メール相談 womens-soudan@mbr.nifty.com

ともだちの家

女性や子どものための緊急避難施設(シェルター)を運営しています。



入居
63件

- 大人 35名
(単身 17人、同伴者あり18人)
- 同伴者(子ども含む) 29名
(就学前 15人、小学生 5人、
中学生 6人、高校生以上 3人)
- 延滞在日数 937日
(子どもの延滞在日数含む)
- 平均滞在日数 15.6日
(最短2日、最長49日)

—新たなニーズに応えるために—

2021年度は、入居が過去最多の63件でした。長引くコロナ禍の影響もあり、シェルターは満室の状態が続いています。

配偶者からの暴力の避難だけでなく、親からの虐待により家庭に居場所のない若年女性の利用も増えました。また、2市との委託契約を結んだことによりそこからの直接の依頼もあり、行政と連携して支援を行うことができました。安心と安全が保障された「ともだちの家」で自尊感情を高め、自分らしさや他者への信頼感を取り戻して次の段階に繋がるよう、スタッフ一同、短い期間ではありますがサポートしております。

しかし利用者数の増加に比例して同行支援も増え、マンパワーの不足や精神疾患をお持ちの方の対応、共同生活によるトラブルや夜間対応といった課題も出てきました。その都度迅速な対応が求められるので、ボランティアの方々の協力やスタッフ間の情報共有を密にして対応していますが、人員体制の強化や精神科医、地域の障がい者支援センター等との連携を深めることが必要だと痛感しています。

■利用者の声■



Cさん

ここに来るまでの2日間全く寝られなかったのに、スタッフさんと、暖かいお布団のおかげで、眠れました。

スタッフの方から「よく決心したね」とか「よく頑張ってきたね」など声をかけていただいて、少しずつ冷静に物事を考えられるようになりました。



Dさん

ステップハウス

シェルターよりフレキシブルな、見守りのある中期滞在施設。2021年度、新たに2か所4戸を増設しました。

2021年度実績



—課題を超えて次の一步へ—



2020年度にステップハウスを開設し、2年目を迎えました。

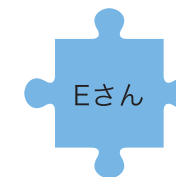
ステップハウスはシェルターと違い、スタッフの見守りを受けながら通勤・通学をすることができます。

2021年度では、家を出るといことで通学はもうできないのではないかと諦めていた大学生が、ステップハウスに入所したことでリモート授業の参加や通学が可能となり、現在も将来の目標に向かって勉強に励んでいます。また、お子さんがデイサービスに行っている間に就職活動が可能になった方、仕事をしながら家を決められた方など、新しい生活へのステップになっています。

若年利用者への対応、定期訪問の日程調整の難しさといった課題は残っています。しかし社会や人との繋がりを保ちながら次に向けて歩み出すことができるステップハウスは、益々需要が増えるのではと考えています。多くの不安を抱えて家を出て来られた方が自己決定しスタートする過程をサポートできるよう、今後もより良いステップハウスを目指します。



■利用者の声■



Eさん

ステップハウスという場所を知ることがなければ、あのまま暴力から逃れられなかったと思います。



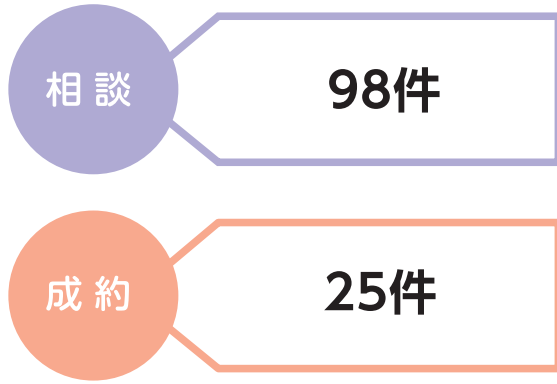
Fさん

普通の「人」、「生活」、「家族」を教えてください。このステップハウスやスタッフさんに本当に感謝しています。

居住支援

当団体は、2019年に兵庫県居住支援法人の指定を取得しました。シングルマザーや離婚を考えている女性、シェルターやステップハウスの入居者のお部屋探しをしています。

2021年度実績



—女性に安全なおうちを—

居住支援の相談件数は、2020年度の1.3倍の98件でした。相談の多くはDV被害女性であり、子どもを連れて家を出たいという方でしたが、家庭内で虐待を受けている若年女性からの相談も増えていきます。長年に渡る暴力や虐待のため、非常に怯えている方、明らかに鬱症状がみられる方も少なくありません。面談はスタッフ二人体制で行い、「よく家を出る決心をされましたね。あなたは決して悪くありません」という言葉がけを丁寧に行っています。コロナ禍で減収し、転居を余儀なくされたシングルマザーや単身女性からの相談もありました。尼崎市REHUL事業など、自治体と共に公営住宅の目的外使用を進め、協力的な大家さんと不動産業者のネットワークを作り、低廉な家賃で安心・安全なすまいを女性に提供できる仕組みを構築していきたいと考えています。

DV防止法の改正が行われ、加害者が処罰され、被害者が住み慣れたコミュニティに留まることができるようになることを願っていますが、それまではDV被害女性や子どもにとって安全な住まいの確保が不可欠です。当団体は、10年程前から「ウィメンズハウス」をつくりたいと願っていました。コロナ禍でその必要性をより強く感じるようになり、ついにその実現に向けて動き始めました。企業の休眠施設を改修し「六甲ウィメンズハウス」をつくり、(公財)神戸学生青年センターと共同で運営します。2024年の開設を予定していて、国土交通省の補助金で予備調査も完了しました。資金を集めるために「居住支援基金」を設立。会員や支援者の皆様のご支援で夢を実現させたいと思います。支援の輪が大きく広がりますようご協力をお願いいたします。

■利用者の声■



Gさん
母子3人でワンルームから3DKに引っ越し、明るい気持ちで過ごせるようになりました。

引っ越した後も、子どもの教育や生活のことなど、なんでも相談にのってもらえて、心強いです。



Hさん

同行支援&家庭訪問支援

■同行支援

同行支援件数
525件

主な同行先：
警察、病院、役所、弁護士事務所、裁判所、不動産屋、家探し内覧、買い物など

様々な被害を背負わされて生きてきた当事者が、大きな不安やトラウマになっている恐怖を抱えながら、やっと自分の人生を取り戻し一歩歩き出せるかなという時期を迎えます。そのためには課題を一つ一つ乗り越えながら、自由と自立した日常生活を得ることが必要となります。

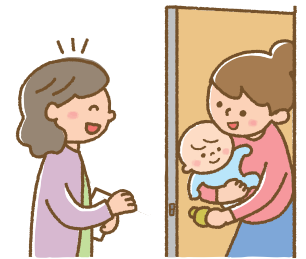
当事者の課題に沿い、社会的なニーズや当事者自身の存在価値も含めて取り戻す作業が大切になります。その作業の一環として、当事者にしっかりと寄り添いながら「私たちも同じ人間だからね、しんどいのはあなただけじゃないよ、一緒に頑張ろうね、いつも側に居るからね」との気持ちで、今後も望まれば必要な所に同行を続けていきます。

■家庭訪問支援

2021年度実績

神戸市内
月2回×9世帯

兵庫県内
月2回×4世帯



年度末に長年訪問していた方が新しい土地に移られました。家族各々が新しい課題に向き合うたびに、DV被害の影響が吹き出し、厳しい日々でした。相談機関・医療機関等の支援を受け、頑張って来られました。

家庭訪問支援では、面談後に共に訪問しているスタッフと内容の振り返りし、次回に備えていました。彼女からDVの心身に及ぼす痛みの深さと厳しさ、専門家の役割の必要性も学びました。聞き手によって話す内容が変化するという当たり前の事実も再確認しました。これまでのことをひとまず置いて、彼女がご自身のことを考え行動されたことと、ずっと信頼関係を維持できたことを嬉しく思っています。

訪問する家庭の状況は多種多様です。その方のお話から何を受け止めるのか、いつも問われています。語られたことを聞き手自身がどう受け止めるのか、思いめぐらす時間が必要です。また、スタッフと内容を考え合うことも大事です。2022年度から訪問のケーススタディの時間を取り入れました。聞く力が鍛えられるよう皆で励みます。

WACCA

(わか…women and children care center)

さまざまな困難を抱える女性やシングルマザーと子どもたちの居場所、および生活再建のための中長期支援の場です。

WACCA b (ふらっと)



2021年度
来所者数
1,346名

相談
98件

ひとり親の
大人の学習
22件

フードパントリー
24回

—ひとりひとりの「つながる」場に—

WACCA b (ふらっと) は 2020 年の開設以来、シングルマザーとその子どもの居場所として活動を続けてきました。しかし、深刻化するコロナ禍の中で、密状態や換気が十分にできないといった支障が生じ、2021 年 11 月に新拠点へ移転しました。お陰様で多くの方々のご理解とご支援により、現在は広々とした木のぬくもりを感じる空間で活動を再開することができています。

新しい WACCA b は商店街に面しています。多くの方の目に留まりやすく、ふらっと相談に来られる方や、ご近所の男性がお菓子の入った袋を持って「子どもたちに渡して!」と来られることもありました。

ひとり親家庭支援、主にシングルマザーや子どもの支援をしていると、表面上何も問題が無いように見える母子であっても、直接お話を聴いている内に、実は様々な問題を複合的に抱えているということが見えてきます。最近では母親の問題と子どもの抱えている問題が複雑化しているケースが多く、母子それぞれの支援を同時に行うことの必要性を痛感しています。WACCA b では「つながる」ことを目標に支援を行い、私たち支援者だけで解決しようとするのではなく、利用者を様々な機関と繋ぎ、利用者同士も繋げるようにしています。利用者同士が関わり合うことでの相乗効果は驚きの連続です。WACCA b はこれからも丁寧に、一人一人の「つながる」を大切に、今後も地域に根差した活動を続けていきたいと考えています。

■利用者の声■

I さん

フードパントリーの受け取りやイベントでたびたび訪れている WACCA b は、いつでもほっと安らげるような明るい雰囲気です。自分にとっての心の支えで、子どもにとってもお気に入りの場所になっています。



フードパントリーの様子

WACCA+ (ぷらす)

2021年度も兵庫県委託で「DV被害者等の自立に向けた中長期支援拠点事業」を「相談」と「居場所」の2つの柱で実施しています。



- 法律相談…23件
- 女性の悩み相談…25件
- オープンダイアログ…83件
- WACCAぷらす相談…39件
- メール/LINE/電話相談…20件
- 自助グループ…16名

相談

居場所

- ボランティアの日…延202名
(軽作業などを通したウォーミンアップの活動)
- 読書会、絵本カフェ、おしゃべり会…延272名
(人が集いエンパワメントできる居場所)



—より重層的な課題に取り組む—

シングルマザー支援や学習支援の場が新拠点に移ったことにより、WACCA+ (ぷらす) は専門相談や居場所としての機能に特化して事業を行うことができるようになりました。

相談件数は、数としては微増ですが、内容はより複雑になり、重層化した課題を持つ相談が増えてきました。DVに関する相談も、離脱前、別居後、離婚前後の葛藤、離婚した後の生活や精神的な問題など、一言でDVの相談とは言えない様々な課題が見えてきました。また、子どもの問題は深刻で、DVの課題は子どもたちをも大きく傷つけること、その回復に何ができるだろうかという大きな課題が加わった気がします。

居場所の充実が、2021年度の大きな特徴です。従来のボランティアの日に加え、読書会、Coco*さろん、絵本カフェ、てつがくカフェなどさまざまな居場所を作りました。その中で、「見違えるように」元気になっていった人もいれば、徐々にマイペースで回復に向けて動き始めている人もいます。久しぶりに来た方が、皆さんの笑顔が増えたのが印象的とってくださいました。今後は、オープンダイアログ、相談などの充実を図るために、相談内容の分析、当事者に回復プロセスの話を聴くといったことも検討したいと思っています。

■利用者の声■

J さん

WACCA でのボランティアに参加するのを『私にできる唯一の仕事』と心に捉えることで、暮らしの中にリズムができ、励みになっています。

WACCA塾

ひとり親家庭の子どもたちのための無料の学習支援を毎週火・水・金、小中学生を対象に実施しています。

2021年度実績

2021年度
参加者

小学生 17名

中学生 23名

年間延人数 2,005名
延113回 実施



クリスマス会の様子

～こんな体験しました～

- ◆2021年 8月24日「WACCA実験教室」
- ◆2021年10月31日「ハロウィンイベント」
- ◆2021年12月 4日「クリスマス会」

—ここを糸口に家庭全体へ—

昨年度に続いて今年度もコロナ禍で神戸市では何度も緊急事態宣言や蔓延防止措置が繰り返される中、WACCA塾はボランティアの協力のもと、感染拡大防止に最大限留意しながら休むことなく実施することができました。WACCAの拡大移転に伴ってWACCA塾もそれまでの倍のスペースになり、木の香りに包まれて子ども達がより落ち着いて学習できるようになりました。そして、6人の中学3年生全員が志望校に合格できたことは支援者の大きな喜びになりました。

コロナ禍でシングルマザー家庭の困難が増すなか、学校やスクールソーシャルワーカーから学習支援や生活の見守りの依頼が増えています。不登校や発達の問題だけではなく、引きこもりや母親や兄弟を支えるいわゆるヤングケアラーも含まれています。問題が重複して複雑になる中、すべての課題に対応できるわけではありませんが、母と子の両方を支援できるWACCAの存在は、各機関からもより注目を集めていると感じます。今後もこの強みを活かして学習支援を糸口に家庭全体への支援を継続していきたいと思っています。

■子どもたちの声■

Kさん

いろんな人と喋れて楽しい。

今まで全然勉強しなかったけど、少しわかるようになってきて、やる気が出た。

Lさん



デートDV防止授業

これまでのDV被害者支援の経験を生かした実践的なデートDV防止授業を、小・中・高・大学生に実施しています。

2021年度実績

参加人数
11,543名

中学校 31校

高校 24校

大学・専門学校 17校



—暴力のないジェンダー平等社会をつくるために—

コロナ禍の中、授業数は減っていましたが、2021年度は前年度より2割ほど授業実施数が増え、以前並みに戻りつつあります。

それでもやむなく中止となった学校もありました。また、複数回の日程変更、密を避けるために学年を限った授業、あるいはリモートでの実施など、先生方が生徒・学生に何とか授業を届けられるようにとそれぞれ対応してくださいました。リモート授業では環境も違うことから、学校ごとの対応となりましたが、今後ウィメンズとしての実施方法などを講師間で共有する必要を感じます。

授業の内容については、資料やスライド中のデータを最新のものに、また質問票の内容も変更するなど、講師間で検討、改訂してきました。ウィメンズの授業は、ジェンダーの視点に基づいて作られているのが特色です。SDGsの5番目「ジェンダー平等の実現」についての内容を盛り込んで2年経ちましたが、生徒の感想から、以前に比べてジェンダー平等に関する問題意識が高くなってきたのを感じます。

暴力のないジェンダー平等社会の実現に向けて、今後もより良い授業へと検討、精査、進化させ、このデートDV防止授業を若い人たちに伝えていきたいと思っています。

■参加者の声■

Mさん

授業前は自分には関係のない話だと思っていたけれど身近なところで起こりうる問題だと知り、他人事ではいられないと感じました。今回のような講演会を子どもの頃から大勢の人が受けて将来にはデートDVが少なくなればいいと思います。

デートDVの原因の一つにジェンダーバイアスがあることが印象に残った。女性らしさや男性らしさととられることなく生きていける世の中を作っていく必要があると思った。それぞれの個性を認め合いながら日々の生活やこれからの人生を過ごしていきたい。

Nさん

2021年は、啓発事業に注力しました。オンラインも駆使し、全国の方々に団体を知ってもらうきっかけにもなりました。

デートDV防止授業の冊子をつくりました！

2021年度のプロジェクトとして、冊子「デートDV防止授業の実践報告～必要性とその効果～」を作成しました。ウィメンズネット・こうべの授業の概要や効果等を紹介し、なぜデートDV防止授業が必要なのかを伝えています。

3年間にわたっての受講生1000人の貴重な声を取り上げ、評価報告のために作成し700人の高校生に協力いただいたアンケートの結果も掲載しています。一人でも多くの学生にデートDV防止授業を届けるためにも、たくさんの方に冊子を手にとってもらえるよう広報していきます。



●担当より●

冊子の発行まで足かけ3年、本当に多くの方々のお力をいただきました。感謝いっぱいです。

教育関係の方、現場の先生方の手元に届き、授業の実施につながることを願っています。デートDVのない安心して自分らしく生きられる社会をつくっていきましょう！

8/7 実施

「シングルマザーと子どもたちが安心して暮らせる社会を作ろう！」

「大塚商会ハートフル基金」の助成をいただき、8月7日にオンラインセミナー「シングルマザーと子どもたちが安心して暮らせる社会を作ろう！」を開催しました。北海道から福岡まで全国各地から82名の申し込みがありました。

当団体では、2019年にDV被害を経験したシングルマザーと子どもに関する実態聞き取り調査を実施。2021年には当時の調査協力者を中心に現状の調査を行い、今回のセミナーで報告を行いました。更に、ゲスト講師「認定NPO法人 しんぐるまざあず・ふぉーらむ」理事長の赤石千衣子様より、コロナ禍におけるシングルマザーの調査報告をしていただきました。

参加者からは「シングルマザーの困難な状況がよくわかった。地域からの孤立を防ぐためにどのようにつながればいいのか考え、動いていきたい。」など、自分に何ができるか考えたいとの感想を多くいただきました。このように全国からの参加者に理解を広げることができ、団体にとって大きな成果となりました。



●担当より●

ウィメンズのセミナーとしては最大の82名の方が申し込んでくださいました。2019年調査に加えて、追加でインタビュー調査を行うことにより、継続するコロナ禍におけるシングルマザーの状況について、よりリアルに当事者の声を全国に届けることができました。

養成講座 開催

ともに活動する仲間を増やすため、毎年講座を開催しています。2021年度では、「デートDV防止授業トレーナー養成講座」と「DV被害者支援ボランティア養成講座」を行いました。

デートDV防止授業トレーナー養成講座

開催日 2021年12月4日(土)・5日(日)

2021年度はオンラインで開催し、10名が受講しました。デートDV防止授業の基礎だけでなく、受講者自身の内なるジェンダーに関するチェックを実施、暴力についておよびその要因について学ぶプログラムを実施しました。講座修了者のうち、フォローアップトレーニングへとステップアップした受講者が3名おり、今後の活躍が期待されます。

DV被害者支援ボランティア養成講座

開催日 2022年2月2日(水)・16日(水)

前年度はオンライン開催でしたが、今回は対面で開催し、15名が受講しました。講座では最初に内なるジェンダー意識に気付くためのチェックを行い、その後、相談対応の基礎やDV・離婚に関する法的知識について学びました。受講者からは「とても学びの深い2日間だった」という感想を多くいただきました。講座修了後、5名が新しくボランティア登録を行いました。



「デートDV防止授業トレーナー養成講座」チラシ

●担当より●

ボランティア養成講座やデートDV防止授業トレーナー養成講座でもジェンダーチェックの時間があります。参加者は「今時男らしさ女らしさって…」と言われるかもしれませんが、チームでお互いの意見を話しているうちに、内なるジェンダー意識に気づいていけます。一緒に参加しているスタッフも毎回根深く残る自身の内なるジェンダーに気づき、自分を振り返る時間になっています。

SNSでの発信強化

ウィメンズネット・こうべは広報力を上げるため、SNSを活用しています。今まではFacebookとTwitterを利用していましたが、2021年度ではInstagramを開設しました。FacebookとTwitterでは団体のお知らせや支援情報に関する発信、Instagramでは啓発を目的とし、DVを始めとする社会課題について情報発信を行っています。よろしければぜひご覧ください。



新しくInstagramを開設しました。

～ウィメンズネット・こうべ SNS情報～

- WACCA(わか) [Facebook](https://www.facebook.com/wacca.womensnet.kobe/) <https://www.facebook.com/wacca.womensnet.kobe/>
- ウィメンズネット・こうべ [Facebook](https://www.facebook.com/womensnetkobe/) <https://www.facebook.com/womensnetkobe/>
- ウィメンズネット・こうべ [Twitter](https://twitter.com/wn_kobe) https://twitter.com/wn_kobe
- ウィメンズネット・こうべ [Instagram](https://www.instagram.com/wnk_since1992/) https://www.instagram.com/wnk_since1992/

2021年度 わたしたちのトピックス

事業

女性のためのつながりサポート神戸

2021年9月～2022年3月にかけて、月1回「あすてっぴ神戸」にて開催。

来場者数(総数)791人

相談者数(総数)188人

神戸市の委託事業として貧困や孤立に苦しむ女性たちを対象に、「女性による女性のための相談」と食糧支援を提供する「つながりサポート神戸」事業を実施しました。全6回の開催で800名近い来場がありました。参加者の多くがシングルマザーでしたが、参加者の状況から、貧困と暴力が密接に関係していることを痛感しました。「つながりサポート神戸」は、2022年度も実施する予定です。



相談会では、毎回100～140名の来場がありました。

受賞

公益財団法人社会貢献支援財団 「創立50周年記念表彰」受賞

公益財団法人社会貢献支援財団様より、ウィメンズネット・こうべが「創立50周年記念表彰」を受賞いたしました。授賞式は2021年7月26日に執り行われました。対面での参加は叶いませんでしたが、特別にご対応いただき、オンラインで参加することができました。当団体の長年の活動をこのように評価していただけたことに、スタッフ一同、心より感謝いたします。今後もすべての女性と子どもが自分らしくのびやかに生きられる社会を目指して邁進してまいります。



後日、賞状とお花をいただきました。本当にありがとうございました。

資金調達

クラウドファンディングに 挑戦しました！

WACCAでは2021年10月1日～11月30日まで、クラウドファンディング「つながるをを広げたい！シングルマザーとこどもの居場所WACCA引っ越しプロジェクト」を実施しました。

今回のクラウドファンディングでは、新しい拠点づくりにかかる工事費用の半分を皆様より募っていました。そして139名にご支援いただき、目標額の200万円を達成することができました！ご支援、応援いただいたすべての皆様に改めて厚く感謝申し上げます。

新拠点では、商店街の中という立地を活用してより開かれた空間にしていきたいと思っています。地域の中で孤立しがちなシングルマザー家庭への理解が深まるよう、より良い居場所づくりを目指します。



工事や引越しでは、ボランティアさんやスタッフが活躍！



情報

DV被害者の公営住宅への 優先入居について、制度が変わりました！

国では、パートナーからの暴力で緊急を迫られ、公募による入居を待つことができず住宅に困窮されている方に対し、市営住宅の提供(行政財産目的外使用)を行っています。ただ、この制度は今まで行政・公的機関に保護された方のみ適用されており、当団体のような民間支援団体の利用者は入居資格がありませんでした。しかし、2022年1月に制度が一部改正され、行政等と連携している民間シェルターの利用者も優先的に公営住宅へ入居できるようになりました。

今回の制度改正においては、当団体代表理事 正井禮子も内閣府、国土交通省、厚生労働省に赴き、改正に向けて尽力しました。ウィメンズネット・こうべは全国的な団体ではないものの、こうして行動を起こしたことが実を結び、国の制度に影響を与えることができました。今後も現場での支援活動に注力しつつ、アドボカシー活動も地道に続けてまいります。

2021年度 会計報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

科目	前年度	当年度
(1)経常収益		
受取会費		
正会員受取会費	210,000	160,000
賛助会員受取会費	259,500	589,500
受取会費計	469,500	749,500
受取寄付金		
受取寄付金計	16,512,283	17,331,436
受取助成金等		
受取助成金等計	31,956,710	24,468,960
事業収益		
事業収益計	17,171,311	33,708,075
その他収益計	2,106,762	131,541
経常収益合計	68,216,566	76,389,512
(2)経常費用		
事業費		
【人件費】	18,486,908	28,123,221
【その他費用】		
謝金など	8,109,440	4,719,060
消耗品費など	3,895,642	2,866,172
水道光熱費	615,468	973,928
支払地代家賃	5,334,407	8,693,265
通信運搬費	695,186	1,544,778
その他経費	2,295,826	7,361,083
【その他費用計】	20,945,969	26,158,286
事業費計	39,432,877	54,281,507
管理費		
【人件費計】	983,296	1,282,773
【その他費用計】	1,834,344	3,047,400
管理費計	2,817,640	4,330,173
経常費用合計	42,250,517	58,611,680
当期経常増減額	25,966,049	17,777,832
2.経常外増減の部		
(1)経常外収益		
経常外収益合計	0	0
(2)経常外費用		
経常外費用合計	0	0
当期経常外増減額	0	0
税引前当期正味財産増減額	25,966,049	17,777,832
法人税、住民税及び事業税	122,000	122,000
当期正味財産増減額	25,844,049	17,655,832
前期繰越正味財産額	16,789,931	42,633,980
次期繰越正味財産額	42,633,980	60,289,812

ウィメンズネット・こうべのあゆみ

- 1992年 男女平等社会の実現を目指す女性グループとして「ウィメンズネット・こうべ」発足
- 1994年 「女たちの家」開設 (阪神淡路大震災により閉鎖)
- 1995年 阪神淡路大震災発生
「女性支援ネットワーク」立ち上げ
「女性のための電話相談」開設
- 1996年 DVに関する学習会を開始
自助グループ「コスモスの会」発足
- 2001年 「DV被害者のためのサポーター養成講座」開始
- 2002年 「DV被害者サポートライン(電話相談)」開設
兵庫県社会福祉協議会
「元気アップアワード・グランプリ」受賞
- 2003年 ジョイセフ「加藤シズ工賞」受賞
- 2004年 女性と子どものための緊急一時保護施設(シェルター)開設
- 2007年 NPO法人格を取得
学校現場で「デートDV防止授業」開始
「シングルマザー支援及び仲間づくり講座」開始
- 2013年 女性と子どもの支援と仲間づくりのための居場所「WACCA」開設
困難を抱える女性の支援及びシングルマザーの子どもを対象に学習支援開始
「第6回ゆめづくりまちづくり賞」受賞 (国土交通省主催)
井植記念会より「井植文化賞」受賞 (社会福祉部門)
- 2015年 認定NPO法人資格取得
フードバンク関西、フリーヘルプとの協働事業で、「子ども元気ネットワーク関西」発足
- 2016年 (公財)社会貢献支援財団より「社会貢献者表彰」受賞
- 2017年 未来を強くする子育てプロジェクト「スミセイ未来賞」受賞
- 2018年 代表の正井禮子が2018年度「チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞」受賞
ソロプチミスト日本財団よりWACCAの活動に対して「社会ボランティア賞」受賞
- 2019年 兵庫県居住支援法人に認定される
令和元年国土交通省居住支援法人活動支援事業に選定
- 2020年 WACCA b、及びステップハウス開設
「第5回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞」受賞
- 2021年 (公財)社会貢献支援財団より「創立50周年記念表彰」受賞
「女性のためのつながりサポート神戸」実施

ご支援ありがとうございました

私たちの活動は皆様のご支援により支えられています。
今後もDV被害など困難を抱える女性と子どもの支援を続けるため、尽力してまいります。



- マンスリーサポーター (オンライン寄付) 12名
- 個人の方からの寄付 221名
- 正会員 28名
- 賛助会員 82名
- クラウドファンディング「つながるを広げたい! シングルマザーとこどもの居場所 WACCA 引っ越しプロジェクト」139名
- フリーヘルプ様 (チャリティーショップ) からの寄付商品の売り上げの一部を、当団体の活動資金として、2013年より毎月寄付していただいています。



- 個人の方からの寄付 60件
衣類、日用品、食品など、多くの物資を寄付していただきました。
- Amazon「みんなで応援」プログラムからの寄付 (団体の作成した「ほしい物リスト」から必要物資を支援していただくプログラム) 79件



2021年度に 協力、寄付金、物品援助をいただいた 企業・団体の皆様

- 認定 NPO 法人フードバンク関西
- NPO 法人フリーヘルプ
- 特定非営利活動法人すまみらい
- 認定 NPO 法人 CS 神戸
- 生活協同組合コープこうべ
- 公益社団法人日本フィランソロピー協会
- 国際ソロプチミスト各団体
- フジッコ株式会社
- 特定非営利活動法人おてらおやつクラブ
- 一般財団法人日本善意財団
- 神戸市社会福祉協議会
- 株式会社 U(N) NEED
- カーブス板宿
- 株式会社ロゴナジャパン神戸本社
- 株式会社神戸物産
- イソップ・ジャパン株式会社
- ネスレ日本株式会社
- 公益財団法人社会貢献支援財団
- 株式会社みらいたべる
- エフエムジー&ミッション株式会社

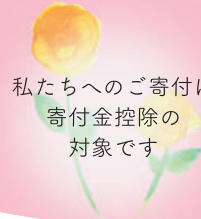
(順不同)

その他、匿名の企業・団体の皆様

活動をご支援ください

DVなど困難を抱える女性や子どものために
ウィメンズネット・こうべを応援してください

私たちへのご寄付は
寄付金控除の
対象です



30周年 記念

困難を抱える女性と子どものための居住支援基金

住宅取得が困難な女性やシングルマザーの住まいを確保し、
その後の生活再建まで伴走型の支援を行うための基金を設立しました。



詳細はこちら

寄付で 応援

マンスリーサポーター募集中！

クレジットカード決済によるオンライン寄付
月 1,000 円からのご寄付で、DV などの困難を抱える女性と子どもの
サポーターになりませんか？



詳細はこちら

銀行振込

三井住友銀行 須磨支店（普通）3803910
名義人 NPO法人女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ

※銀行振り込みでご寄付をいただける場合お手数で
すが、お名前・ご住所を別途、メールあるいはFAX
で必ずお知らせください。

郵便振替

郵便振替口座：00990-3-330322
加入者名：女性と子ども支援センター

遺贈（遺産の寄付）をお考えの方は、
ご相談ください。

会員として 応援

正会員（個人） 1口 10,000円 総会の決議権あり
賛助会員（個人） 1口 3,500円 総会の決議権なし
賛助会員（団体） 1口 10,000円 総会の決議権なし

会費振込口座 郵便振替口座 00990-3-330322
加入者名 女性と子ども支援センター

団体の趣旨と活動に賛同
して下さる方は、ぜひ
会員になってください。

物品で 応援

シェルター生活者やシングルマザーと子どもた
ちへの食品、日用品などの物品の提供をお願い
しています。物品の提供支援をお願いできる方
は、事前に連絡をお願いします。

(TEL 078-734-1308)

また、DV被害者が安心して日常生活に戻
るために、安心できる住居（アパート・空
家）や仕事をご提供下さい。

詳しくはお電話、メール、お問い合わせ
フォームのいずれかよりご連絡ください。

ボランティア 募集

電話相談、同行支援、シェルター支援、事務、広報、
パソコン、資金調達経験者、当団体に関心のある方な
ど、ボランティアを幅広く募集中です。保育・学習支
援の登録ボランティアも募集しています。



応援メッセージいただきました



手嶋 昭子 様（京都女子大学法学部 教授）

このたび、応援メッセージの依頼を頂き、うまく言葉にできませんが、ウィメンズ
ネット・こうべの皆様が、DV被害者支援のため、夜も昼もなく東奔西走されている
お姿に接し、深く敬意と感謝の念を抱いてきました。長年にわたり、多くの女性たち、
子どもたちの生活を支えてこられたウィメンズネット・こうべの活動がさらに発展し
ていけるよう、国や自治体の援助はいうまでもなく、広く社会からの支援が届くよう
願っております。



谷口 賀彦 様（一般財団法人 日本善意財団）

2021年1月からWACCA様とのご縁がつながり、早いもので、もう1年半が経ちま
した。

昨年にはWACCA様新拠点への移転もあり、とてもやさしくて素敵な「場」を作って
おられるように思います。

私たち日本善意財団からは「食の支援」を中心に、より笑顔のつながりが増えてい
きますよう、これからも応援させていただきます！

WACCA様のキーワード、「つながり」の輪が広がり、益々ご発展いただきますようお
祈り申し上げます。

安倍 昭恵 様（公益財団法人社会貢献支援財団 会長）

皆さま方の、目の前で困っている人を放っておけない！この気持ちがどれだけ多く
の、日本に住む女性や子供をこれまで救ってきたことでしょうか。DVは、国籍、人種、時
代、生活レベルに関係なく存在する問題ですが、家族への暴力は内輪のことと、問題
視されない状況が長く続いて来ました。そこに楔を打ったのがウィメンズネットこうべ
の活動です。母子の心の傷を癒やし、生活を立て直し、伴走する。その細やかでしなや
かな支援に対し、心より敬意を表します。



— 30周年に向けて —

2021年度では、多くの皆様に私たちの活動をご支援、応援していただきました。心より感謝申し上げます。

皆様に支えられ、今年2022年、ウィメンズネット・こうべは活動を始めて30年になりました。

1991年に「兵庫県に女性センターをつくる会」から始まり、92年に神戸元町のデパート近くにあったビルの1室で「ウィメンズネット・こうべ」が誕生しました。

最初の活動はCR(コンシャスネス・レイジング 意識覚醒)でした。6～7人で語り合うなかで、「女性の生きづらさは決して個人的な問題ではなく、社会的な問題なのだ(personal is political)に気づく作業でした。そこからさまざまな活動が生まれました。93年に生き方で悩む女性のための情報誌「兵庫発 女の伝言板」発行、94年春「女たちの家」の開設、そして95年、阪神淡路大震災に遭遇し、女性支援ネットワークを立ち上げ、被災女性の支援を行いました。

震災を契機に、DV被害女性の支援に取り組むようになり、2004年にシェルター「ともだちの家」を開設、その後も継続して家庭訪問や生活再建支援を行っています。

2006年からは、中高生等若い人のためのデートDV防止教育を行うようになり、受講生徒は25万人に上ります。

2013年にはさまざまな困難や孤立を抱える女性のための居場所「WACCA(わっか)」を神戸市内に開設、シングルマザーの支援やDV被害女性の中長期的支援も行っております(毎年延べ千人が利用)。

DVから逃れるには安心して暮らせる住まいが不可欠だとの思いから、2019年には居住支援法人の資格を取得し、住宅取得が困難な女性の家さがしやその後の支援も行っています。

当団体の活動の目的は、女性がもっと自由に、もっとのびやかに生きられる社会、暴力に苦しむ人のない社会、ジェンダー平等社会の実現です。DVやデートDVはGender Based Violence(ジェンダーに基づく暴力)と言われており、DVを根絶するにはジェンダー平等が不可欠です。ご存知のように、日本はジェンダーギャップ指数が世界116位(146カ国中)。特に政治への参画が低く、139位です。社会への意思決定の仕組みがこれまで男性中心につくられてきた国です。

SDGs(2030年に向けて誰も取り残さない社会をつくるための開発目標)の5番目の目標としてジェンダー平等が入っています。昨今のSDGsへの関心の高まりを追い風にして、日本のジェンダー平等社会実現に向けてこれからも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

末筆ではございますが、これまでの皆様の応援・ご支援に改めて感謝いたします。どうぞ今後とも息の長いご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

認定NPO法人女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ

代表理事 正井 禮子



団体概要

名 称	認定NPO法人 女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ
設 立	1992年4月1日(団体設立日) 2007年4月2日(法人設立登記日) 2015年3月23日(認定NPO法人格取得)
代表理事	正井禮子

認定NPO法人女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ

E-mail:womens-net-kobe@nifty.com
TEL・FAX:078-734-1308
<https://wn-kobe.or.jp/>



WACCA(わっか)

Email:wacca@mbr.nifty.com
TEL・FAX:078-798-6150
<https://wacca27.wixsite.com/wacca>

